

STI for SDGsと文部科学省における 基本方針等について

科学技術・学術政策局
科学技術・学術戦略官(国際担当)付

2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標(その下に、169のターゲット、232の指標が決められている)。特徴は、以下の5つ。



普遍性 先進国を含め、全ての国が行動

包摂性 人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」

参画型 全てのステークホルダーが役割を

統合性 社会・経済・環境に統合的に取り組む

透明性 定期的にフォローアップ

前身:ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs)

- 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。
 - 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。
(①貧困・飢餓, ②初等教育, ③女性, ④乳幼児, ⑤妊産婦, ⑥疾病, ⑦環境, ⑧連帯)
- ✓ MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。
- 極度の貧困半減(目標①)やHIV・マラリア対策(同⑥)等を達成。
 - × 乳幼児や妊産婦の死亡率削減(同④, ⑤)は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ

環境
(リオ+20)

人権

平和

政府:SDGs実施に関する国内基盤の整備

- SDGsが採択された国連サミットにおいて、安倍総理から、SDGsの実施に最大限取り組む旨を表明。
- 国内実施と国際協力の両面で率先して取り組むため、SDGs推進本部を設置し、関係省庁が連携し、政府一体で取り組む体制を構築。
- 広範な関係者(行政, NGO・NPO, 有識者, 民間セクター, 国際機関, 各種団体等)が集まり意見交換を行う「SDGs推進円卓会議」を設置。
- 第2回SDGs推進本部会合において、8つの優先課題を掲げる「SDGs実施指針」を決定。

【これまでの主なプロセス】

(2016年)

- 5月20日 総理を本部長、全閣僚を構成員とするSDGs推進本部を設置。
第1回会合において「SDGs実施指針」の策定に向けた総理指示。
- 12月22日 第2回SDGs推進本部会合を開催し、実施指針を決定。

(2017年)

- 5月25日 円卓会議を開催。ハイレベル政治フォーラム(HLPF)での発表やSDGsの地方展開について意見交換。
- 6月9日 第3回SDGs推進本部会合を開催。企業や団体等の先駆的な取組を表彰する「ジャパンSDGsアワード」の創設を決定。
- 12月26日 第4回SDGs推進本部会合を開催。「SDGsアクションプラン2018」を決定。

(2018年)

- 6月15日 第5回SDGs推進本部会合を開催。「拡大版SDGsアクションプラン2018」を決定。
- 12月21日 第6回SDGs推進本部会合を開催。「SDGsアクションプラン2019」を決定



SDGsを採択した国連サミットで演説する安倍総理
(2015年9月)



SDGs推進本部会合
(2016年12月)

持続可能な開発目標(SDGs)実施指針【概要】

- ビジョン:「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す。」
- 実施原則:①普遍性, ②包摂性, ③参画型, ④統合性, ⑤透明性と説明責任
- フォローアップ:2019年までを目処に最初のフォローアップを実施。

【8つの優先課題と具体的施策】

①あらゆる人々の活躍の推進

■一億総活躍社会の実現 ■女性活躍の推進 ■子供の貧困対策 ■障害者の自立と社会参加支援 ■教育の充実

②健康・長寿の達成

■薬剤耐性対策 ■途上国の感染症対策や保健システム強化、公衆衛生危機への対応 ■アジアの高齢化への対応

③成長市場の創出、地域活性化、 科学技術イノベーション

■有望市場の創出 ■農山漁村の振興 ■生産性向上
■科学技術イノベーション ■持続可能な都市

④持続可能で強靱な国土と 質の高いインフラの整備

■国土強靱化の推進・防災 ■水資源開発・水循環の取組
■質の高いインフラ投資の推進

⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、 循環型社会

■省・再生可能エネルギーの導入・国際展開の推進
■気候変動対策 ■循環型社会の構築

⑥生物多様性、森林、海洋等の 環境の保全

■環境汚染への対応 ■生物多様性の保全 ■持続可能な森林・海洋・陸上資源

⑦平和と安全・安心社会の実現

■組織犯罪・人身取引・児童虐待等の対策推進
■平和構築・復興支援 ■法の支配の促進

⑧SDGs実施推進の体制と手段

■マルチステークホルダーパートナーシップ ■国際協力におけるSDGsの主流化 ■途上国のSDGs実施体制支援



『SDGsアクションプラン2019』のポイント

- 日本は、豊かで活力のある「誰一人取り残さない」社会を実現するため、一人ひとりの保護と能力強化に焦点を当てた「人間の安全保障」の理念に基づき、世界の「国づくり」と「人づくり」に貢献していく。
- 『SDGsアクションプラン2019』では、次の3本柱を中核とする日本の「SDGsモデル」に基づき、『SDGs実施指針』における8つの優先分野に総力を挙げて取り組むため、2019年におけるより具体化・拡大された政府の取組を盛り込んだ。
- 2019年のG20サミット、TICAD7、初のSDGs首脳級会合等に向けて、①国際社会の優先課題、②日本の経験・強み、③国内主要政策との連動を踏まえつつ、以下の分野において国内実施・国際協力の両面においてSDGsを推進。

I. SDGsと連動する「Society 5.0」の推進

中小企業におけるSDGsの取組強化

- 大企業や業界団体に加え、中小企業に対してもSDGsの取組を強化。
- 「SDGs経営／ESG投資研究会」の開催等を通じて、『SDGs経営イニシアティブ』を推進。TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言を踏まえ、企業の取組を促進。
- 『中小企業ビジネス支援事業』を通じた途上国におけるSDGsビジネスの支援。

科学技術イノベーション(STI)の推進

- 統合イノベーション戦略推進会議下の「STI for SDGsタスクフォース」で、『ロードマップ』やそのための「基本指針」を策定。「STI for SDGsプラットフォーム」の立ち上げも準備。
- STIフォーラムやG20関連会合を通じ、国際社会における議論を促進。

II. SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり

SDGsを原動力とした地方創生

- SDGs未来都市の選定、地方創生SDGs官民連携プラットフォーム等を推進。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、2025年大阪・関西万博を通じたSDGsの推進。
- ICT等先端技術を活用した地域の活性化。
- スマート農林水産業の推進。

強靱かつ環境に優しい循環型社会の構築

- 国内外における防災の主流化の推進。
- 質の高いインフラを通じて連結性を強化。
- 海洋プラスチックごみ対策を含む持続可能な海洋環境の構築。
- 地域循環共生圏づくりの推進。
- 日本の技術・経験を活かした気候変動対策への貢献。
- 省エネ・再エネ等の推進。

III. SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント

次世代・女性のエンパワーメント

- 「次世代のSDGs推進プラットフォーム」を始動し、国内外における具体的な取組を推進。
- 3月に同時開催するWAW! (国際女性会議)とW20 (G20エンゲージメント・グループ会合)において女性活躍のための方途について議論。

教育・保健分野における取組

- 国内で、幼児教育から高等教育まであらゆる段階において「質の高い教育」を実施。
- G20関連会合やTICAD7を通じ、日本の経験を共有しつつ、国際教育協力やUHC (ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ)を推進。

展開とフォローアップ

- 日本のSDGsモデルを、東南アジア・アフリカを重点地域としつつ、国際社会に展開していく。
- 国際的な指標等に基づいて、これまでの取組をレビューし、2019年後半に『SDGs実施指針』を改訂。

STI for SDGsに関する国連の体制



SDGs Summit (国連総会)

4年毎に開催

経済社会理事会(ECOSOC)

国連ハイレベル政治フォーラム(HLPF)

毎年
7月
開催

- 国連貿易開発会議 (UNCTAD)
- 国際電気通信連合 (ITU) 他

技術円滑化メカニズム (TFM)

- SDGsのためのSTIに関する国連機関間タスクチーム (IATT)
;10人委員会
- オンライン・プラットフォーム
- SDGsのためのSTIに関するマルチステークホルダーのフォーラム
(**STIフォーラム**)

加盟国

毎年5/6月開催

国連10人委員 : UN IATT-STI 10 Member Group (2018-2019)

HOME

HIGH-LEVEL POLITICAL FORUM

STATES

SIDS

SDGS

TOPICS

UN SYSTEM

STAKEHOLDER ENGAGEMENT

PARTNERSHIPS

RESOURCES

ABOUT



Dr. Paulo Gadelha (Brazil),
Coordinator of the FIOCRUZ
Strategy for the 2030
Agenda, Oswaldo Cruz
Foundation (FIOCRUZ)



Prof. Huodong Guo (China),
President and Chairman,
Institute of Remote Sensing
and Digital Earth of the
Chinese Academy of
Sciences (CAS)



Dr. Heide Hackmann (South
Africa), Executive Director,
International Council for
Science (ICSU)



Dr. Agnes Lawrence Kijazi
(United Republic of
Tanzania), Director General,
Tanzania Meteorological
Agency (TMA)



Mr. José Ramón López-
Portillo Romano (Mexico),
Chairman, Q Element Ltd.



Dr. Michiharu Nakamura
(Japan), Senior Advisor
(Former President), Japan
Science and Technology
Agency



Dr. Anne-Christine Ritschkoff
(Finland), Senior Advisor VTT
Technical Research Centre of
Finland Ltd.



Ms. Špela Stres (Slovenia),
Director of Innovation and
Technology Transfer Center
for Jožef Stefan Institute



Dr. Vaughan Turekian (USA),
Senior Director at the
National Academies of
Sciences, Engineering, and
Medicine



Ms. Ada Yonath (Israel),
Director and Nobel
Laureate, the Helen and
Milton A. Kimmelman Center
for Biomolecular Structure

【参考】JST中村顧問の国連での活動

- 2018年4月28日、JST中村道治顧問が、グテーレス国連事務総長の任命により「10人委員会」のメンバーに選出された（任期2年）。
- SDGsの実施を促進するために設置された、技術円滑化メカニズムの構成要素であるIATTに対し、助言等を行う。
- 2018年度は特に「STI for SDGsロードマップ策定」の推進活動を実施。

＜2018年度の主な活動＞

- 2018.05 2nd EGM on STI for SDGs roadmaps (Tokyo)
CSTD (Geneva)
- 2018.06 3rd STI forum (NY)
- 2018.07 HLPF 2018 (NY)
- 2018.08 ESCAP 2nd High Level Meeting (Bangkok)
- 2018.09 GFCC innovation summit/ T20 (Buenos Aires)
- 2018.11 inno4sd.net, G-STIC (Brussels)
3rd EGM on STI for SDGs roadmaps (Brussels)
- 2019.02 AAAS2019 (Washington D.C.)
STI workshop (Bangkok)
- 2019.04 4th EGM on STI for SDGs roadmaps (Nairobi)

技術円滑化メカニズム（TFM）

- SDGsのためのSTIに関する国連機関間タスクチーム（IATT）；**10人委員会**
- オンライン・プラットフォーム
- SDGsのためのSTIに関するマルチステークホルダーのフォーラム（**STIフォーラム**）



第3回STIフォーラム（2018年6月5日）
10人委員会メンバーとして挨拶

持続可能な開発目標達成のための科学技術イノベーション (STI for SDGs)に関する基本方針【概要】

平成30年4月
平成30年8月改訂
文部科学省

SDGsをとりまく国内外の動向

～国際的な動向～

- ・国連「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択（2015年9月）
- = 2030年を期限とする**持続可能な開発目標（SDGs）を設定**
- ・国連STIフォーラムの開催等

～政府の取組～

- ・「**SDGs推進本部**」（2016年5月）を設置し、「**SDGs実施指針**」（同年12月）、「**SDGsアクションプラン2018**」（2017年12月）、「**拡大版SDGsアクションプラン**」（2018年6月）を策定
 - ※ 科学技術イノベーション（STI）は、多様な分野において**課題の解決に不可欠な横断的要素**。Society5.0等と連動した取組の推進が重要
- ・CSTIにおいて、「**統合イノベーション戦略**」（2018年6月）を策定、**SDGsの推進体制を整備し、ロードマップ等**を検討

～政府外の取組～

- ・経団連（SDGsの達成を柱とした「**企業行動憲章**」の改定）
- ・研究開発法人や大学等（JSTにおけるSDGs達成に係る取組等）

文部科学省の役割・取組方針

- ・多様な研究機関等を所管し、主要な科学技術施策を実施していることから、**政府全体の取組に積極的に参画し、主体的に貢献**。
- ・既に各種施策を通じてSDGs課題の解決に寄与してきた**実績等も踏まえつつ、さらに施策を充実**。
- ・STI for SDGsの取組が、**STIのあり方自身に変革を迫る契機**であることを踏まえ、**創造的・革新的技術シーズの創出とバックキャスト・デザイン思考の効果的な組み合わせ、多様な専門家が分野等を越えて結集して新たなアイデアの創出を促進する仕組み、各セクターを越境し繋ぐ人材の育成等**が必要であるという視点を持って具体的取組を推進。

STI for SDGs推進に向けた文部科学省の取組

※STI for SDGs : Science, Technology and Innovation for Sustainable Development Goals

(1) 「STI for SDGs 文部科学省施策パッケージ」の策定

- ・STI施策を通じた**SDGs達成への文部科学省の貢献の在り方を整理**し、その実現のために必要となる**施策を体系化**。
(国内取組、国際展開のそれぞれの施策について、概要や期待される成果、今後の展開等を**時間軸も意識しながら検討**。)
- ・上記取組方針に加え、**STI for SDGsの推進を担う人材育成、人文・社会科学と自然科学との連携、地方創生への寄与の重要性も**念頭に検討。

(2) 施策パッケージに基づくSTI for SDGsの推進

- ・**概算要求への適切な反映等**により、STI for SDGs施策を戦略的かつ着実に推進。
- ・異なる**施策の有機的連動や教育・文化・スポーツ等の分野との連携**により、多様なSDGsの課題解決に寄与。
- ・STI for SDGsに関する知見や実績を有する**JSTと連携**するとともに、**産業界・大学・研究機関・NPO・国際機関等が参画する各種のオープンプラットフォーム等**を通じて議論を行うなど、**多様なステークホルダーとの連携による共創を推進**。

(3) 広報・啓発活動の推進

- ・SDGsに係る**広報・啓発や国際発信**へ貢献。**教育関係施策との連携**により、STI for SDGsについての**学習機会を充実**。

(4) 推進体制

- ・**省内における推進体制を整備**し、STI for SDGs施策の体系的・戦略的な実施やフォローアップを推進。

STI for SDGs 文部科学省施策パッケージ【概要】

文 部 科 学 省
平 成 3 0 年 8 月
平 成 3 0 年 1 2 月 改 訂

STI for SDGs : 持続可能な開発目標達成のための科学技術イノベーション

【経緯】

2015年9月	国連において持続可能な開発目標（SDGs）が掲げられた「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択
2016年12月	内閣総理大臣を本部長とするSDGs推進本部が「SDGs実施指針」を決定
2017年12月	「SDGsアクションプラン2018」 SDGs推進本部決定
2018年4月	「STI for SDGsの推進に関する基本方針」文部科学省策定（文部科学省基本方針）
2018年6月	「拡大版SDGsアクションプラン2018」SDGs推進本部決定、「統合イノベーション戦略」閣議決定
↓	
2018年8月	STI for SDGs 文部科学省施策パッケージ

- 2030年に向けて時間軸も意識しながら多様なSDGsの課題解決に統合的に取り組み、STI for SDGs施策を有機的・分野横断的に連携させることを目指した。
あらゆるステークホルダーや当事者の参画を重視する等のSDGsの原則を踏まえたSTI for SDGsの取組は、STIのあり方自身に変革を促す契機。
- 本施策パッケージに盛り込まれた施策について全体的・俯瞰的なアプローチにより体系的・戦略的に実施。毎年度の概算要求に適切に反映すること等により、**STI for SDGs施策の戦略的かつ着実な推進を図る。**

【施策パッケージとりまとめの考え方】

- ◆ SDGsの17の目標やその下の169のターゲットの内容を念頭に、現在の文部科学省のSTI施策について、趣旨や期待される成果等を勘案しつつ、SDGs達成にどう貢献できるか、施策連携によりどう統合的な成果が期待できるかといった観点から、主な施策の整理・体系化を試みた。
(分野横断的・共通的な取組と、一定の分野のまとまりでとらえられる主要取組に分け、特に後者についてはSDGs達成への時系列を道筋として示すよう試みた。)
- ◆ 文部科学省の主なSTI for SDGs施策体系の見える化により、今後、様々なステークホルダーとの関わりや対話が促進され、協働・共創に繋がることを期待し、分野・セクターを超えた様々なステークホルダーを幅広く巻き込んだオープンな議論等を通じて、これらの協働・共創を推進する。そのための「場づくり」、「オープンプラットフォームの形成」に貢献したいと考えている。
また、推進状況等に応じ本パッケージをアップデートしつつ推進することが重要と考えられる。

※ なお、施策パッケージの推進に当たっては、文部科学省が中心となって取り組んでいる「持続可能な開発のための教育」（ESD）をはじめとする、教育・スポーツ・文化等の分野の施策との効果的な連携にも留意しつつ推進する。



2030年に向け経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組み、「誰一人取り残さない」社会を実現

SDGsを推進することによる科学技術政策への好ましいインパクト

SDGs達成のための科学技術イノベーション(STI for SDGs)を推進し、国内外のSDGs達成に科学技術政策として貢献していくことはもちろんであるが、以下のとおり、SDGsを軸に科学技術政策を進めることで、科学技術イノベーションに好ましいインパクトが起きる(SDGs for STI)ことが想定される。

1. 共通目標・共通言語

SDGsは世界広く、文化・国境・専門分野・組織・世代等を超えて受け入れられやすい概念であり、マルチステークホルダーの共通目標・共通言語として機能する。これまで必ずしも協働・共創がなかったステークホルダー同士を繋ぐことが可能になるため、科学技術政策上の課題とされてきた、いわゆる異分野連携、産学官連携、国際協力といった異なる者同士の連携・協力が起こしやすく・組みやすくなり、科学技術による価値創出を促進することができる。

2. 我が国のイノベーション・エコシステムの変革

SDGsやデジタル革命・第4次産業革命により世界的にイノベーション・エコシステムが変容する可能性がある(人々が起こすイノベーションは既に以下のキーワードに表されるようにこれらが表す方向に変容していると考えられるが、これは世界的なトレンドである。また、国際開発金融や産業界の資金が流れる可能性がある。)が、我が国において「世界で最もイノベーションに適した国」を実現するために、SDGsやSociety 5.0を、起こすべき変革の軸として活用できる。

モノづくり・モノ消費、シーズ志向、自前主義、フォアキャスト、事業計画と遂行、マスプロダクション

↓

コトづくり・コト消費、ニーズ志向、オープン・クローズ戦略、バックキャスト、リーンスタートアップとピボット、マスカスタマイゼーション

3. 新しい科学技術の潮流

研究者にとってSDGsは新たなニーズとそれに基づく知的好奇心の発見というフロンティアとなる可能性があり、ニーズの多様性と相まって新しい科学技術の潮流を生む可能性がある。

4. 科学技術イノベーションへのこれまでなかった人材層の動員

あらゆるステークホルダーや当事者の参画を重視し、全員参画型で取り組むというSDGsの理念により、これまで必ずしも科学技術に興味のなかった人材層が科学技術イノベーションの担い手として参画する可能性があり、人材層の多様性と厚みの確保が期待される。

5. 社会的価値という軸

科学技術政策は、これまで知的価値、経済的価値、社会的価値のバランスで時に揺れてきたが、SDGsにより社会的価値の意義や評価軸がより堅牢になるため、政策展開上の一つの軸になる。